福　　祉

1　高等学校学習指導要領の改訂に向けて（中央教育審議会答申より）

(1) 改善の基本方針

将来のスペシャリストの育成という観点から専門分野の基礎的・基本的な知識、技術及び技能を身に付けるための教育とともに、職業人としての規範意識や倫理観等を醸成し、豊かな人間性の涵養等にも配慮した教育を行うことが重要である。

また、産業構造の変化等の情勢の変化に対応し、それぞれの専門分野で真に必要とされる教育内容に精選するとともに、新たに求められる教育内容・方法を取り入れることが重要である。

さらに、職業教育の充実のためには、小・中学校段階におけるキャリア教育や進路指導との接続、専門高校生に産業社会や大学等が求める能力・資質との関連、次代を担う人材の育成などの観点から、関係各界・各機関等との連携強化なども重要な視点である。このような基本的な考え方の下、科目の構成及び内容の改善を図る。

(2) 改善の具体的事項

【専門教育における課題】

○　経済のグローバル化や国際競争の激化、規制緩和等に伴う産業構造の変化、技術革新・国際化・情報化等に伴う産業社会の高度化、就業形態の多様化などに見られる就業構造の変化等により、我が国の産業社会や企業の専門高校に対する期待や、専門高校の生徒に求める資質・能力は変化してきている。また、専門高校の生徒の意識の変化や進路の多様化が進んでいる中で、「大学全入時代」の到来等も相まって、これまで以上に明確な目的意識をもった進路選択が促進されるよう、適切な対応が求められている。

ア　教科横断的な事項

(ｱ) 将来のスペシャリストの育成に必要な専門性の基礎・基本を一層重視し、専門分野に関する基礎的・基本的な知識、技術及び技能の定着を図るとともに、ものづくりなどの体験的学習を通し実践力を育成する。

さらに、資格取得や各種検定への挑戦等、目標をもった意欲的な学習を通して、知識、技術及び技能の定着、実践力の深化を図るとともに、課題を探究し解決する力、自ら考え行動し、適応していく力、コミュニケーション能力、協調性、学ぶ意欲、働く意欲、チャレンジ精神などの積極性・創造性等を育成する。

(ｲ) 将来の地域産業を担う人材の育成という観点から、地域産業や地域社会との連携・交流を通じた実践的教育等を充実させ、実践力、コミュニケーション能力、社会への適応能力等の育成を図るとともに、地域産業や地域社会への理解と貢献の意識を深めさせる。

(ｳ) 人間性豊かな職業人の育成という観点から、人と接し、自然やものとかかわり、命を守り育てるという職業教育の特長を生かし、職業人として必要な人間性を養うとともに、生命・自然・ものを大切にする心、規範意識、倫理観等を育成する。

(ｴ) (ｱ)～(ｳ)を踏まえた改善に当たり、産業構造の変化、技術の進捗等に柔軟に対応できる人材の育成のため、専門分野に関する基礎的・基本的な知識、技術等の定着を特に重視するとともに、就業体験等、実社会や職業とのかかわりを通じて、高い職業意識・職業観と規範意識、コミュニケーション能力等に根ざした実践力を高めることを一層重視し、例えば、職業の現場における長期間の実習を取り入れるなどにより、教育活動を充実すべきである。

(ｵ) 上記のほか、生徒の意識の変化や進路の多様化等に対応するため、弾力的な教育課程を編成することに加えて、より実践的な職業教育や就業体験等を通じて、職業選択能力や人生設計能力を身に付けさせる教育が可能となるよう配慮することも必要である。

イ　各教科・科目に関する事項

少子高齢化の急速な進展に伴い、地域における自立生活支援への志向や福祉ニーズへの多様化など社会福祉に対する国民意識の変化に対応し、多様で質の高い福祉サービスを提供できる人材を育成する観点から、介護福祉士の資格等にも配慮して、科目の新設を含めた再構成、内容の見直しなど次のような改善を図る。

(ｱ) 教科の目標については、福祉教育としての基本的なねらいに変更はないので、現行どおりとする。

(ｲ) 科目構成については、上記の改善の視点に立ち、現行の７科目を９科目とする。

人間と社会、介護概論、コミュニケーション技術、<u>生活援助技術</u>、<u>介護過程</u>、介護総合演習、介護実習、<u>こころとからだのしくみ</u>、福祉情報活用　　（＿＿＿は、新設科目）

(ｳ) 新設する科目については、以下の３科目とする。

・「生活援助技術」

自立に向けた状態別の介護として、適切な介護技術を用いて、安全に援助できる知識や技術について習得することをねらいとする。

・「介護過程」

福祉に関する他の科目で学習した知識や技術を統合し、介護過程の展開、介護計画の立案、介護サービスの提供ができる能力を養うことをねらいとする。

・「こころとからだのしくみ」

介護技術の根拠となる人体の基礎構造や機能・心理及び介護サービスの提供における安全への留意点を理解し、心理的・社会的ケアの提供ができる能力を養うことをねらいとする。

(ｴ) 以下のとおり、科目を整理統合する。

・福祉に関する専門分野学習の基礎となる科目として教育内容を充実するため、「社会福祉基礎」と「社会福祉制度」の内容を整理統合し、「人間と社会」とする。

(ｵ) (ｳ)、(ｴ)のほか、以下のとおり、科目を再構成する。

・介護の考え方を理解するとともに、対象者を生活の観点からとらえる科目として

内容を整理し、「基礎介護」の名称を変更し、「介護概論」とする。

・対人関係の基本やコミュニケーションの技術、対象者や援助的関係を理解する科目として内容を整理し、「社会福祉援助技術」の名称を変更し、「コミュニケーション技術」とする。

・介護実習に必要な知識や技術、介護課程の展開等について、総合的に学習する科目として内容を整理し、「社会福祉演習」の名称を変更し、「介護総合演習」とする。

・福祉に関する他の科目で学習した知識や技術を統合し、介護サービスを提供する実践力を習得する科目として内容を整理し、「社会福祉実習」の名称を変更し、「介護実習」とする。

・介護実践において活用できる記録・情報収集等の能力を育てる科目として整理し、「福祉情報処理」の名称を変更し、「福祉情報活用」とする。

(ｶ) 介護福祉士にかかる制度改正等を踏まえつつ、今後、教科「福祉」の科目構成及び内容について検討する必要がある。

２　「確かな学力」を育成する取組の改善・充実

～学力の３つの要素を踏まえた学習指導等の改善・工夫～

(1) 科目「社会福祉援助技術」における学力の３つの要素を踏まえた取組

学校教育法の一部改正により、学力の重要な３つの要素として、①基礎的・基本的な知識・技能の習得、②知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等、③学習意欲、が示されている。教科「福祉」の学習指導においても、福祉マインドの形成や勤労観・職業観の育成のため、社会福祉や介護に対する専門科目の理論と実践の融合を行い、課題解決を図ることが重要とされている。本手引では、対人援助や自立支援の学びを通して、社会福祉援助活動に活用する能力と態度を育成することを目的としている「社会福祉援助技術」の単元である「レクリエーションの考え方と展開」を取り上げ、学力の３つの要素を取り入れた学習指導を例に挙げて説明する。

(2) 学力の３つの要素を踏まえた学習指導等の改善・工夫の実践例

単元「レクリエーションの考え方と展開」では、レクリエーション活動が自立生活支援に必要な援助であるという社会的意義とレクリエーションの活動の理論や方法などについて理解させるとともに、レクリエーション計画の作成能力や実践援助能力の習得向上をねらいとしている。レクリエーションには、心身の健康を維持・増進させ、生活に安らぎと触れ合いをもたらし、よりよい人間関係を生み出すことができ、その活動によって、自分自身の可能性を広げ、さらに生きがいを作り出すことができるという考え方がある。演習や現場実習等における援助展開では、社会福祉援助技術を含むレクリエーション理論と実践の融合を図ることができ、(1)で述べた学力の３つの要素の①と②が関連して展開される。すなわち、理念や援助技法、自立生活支援に対する基礎的知識を理解し、対象の福祉ニーズや個別性・集団性、環境要因、レクリエーションの目的や効果などを総合的に判断した援助を提供する一連の過程の中に、学力の要素の実現に導いていくことができるといえる。そして、学習の中で、追求した内容や結果を評価分析し、

対象の社会参加について主体的に考えを述べることで、より深く思考力や表現力を身に付けることができる。また、要素の③については、生徒にとって身近な教材である「遊び」を取り入れることで、現実に即した問題解決能力や情報収集能力、選択・評価する能力等を育成する学習を行うことができることから、自己学習能力が高まり、自発的、総合的な学習態度の育成につなげることができる。

科目「社会福祉援助技術」における単元「レクリエーションの考え方と展開」シラバス（例）

教科名	福祉	科目名	社会福祉援助技術
履修学年	第３学年	学科	福祉科
単位数	１単位	授業形態	一斉学習・グループ学習・個人学習
教科書	社会福祉援助技術（一橋出版）	副教材等	介護福祉士養成講座６ レクリエーション活動援助法（中央出版）
単元名	レクリエーションの考え方と展開		
単元の目標	(1) 高齢者や障害者の自立生活支援に必要な社会福祉における意義を理解する。 (2) レクリエーション活動の援助者としての役割を理解する。 (3) レクリエーション計画の作成や実践援助に対する能力を育成する。		
学習の留意点	【留意点】 (1) 社会福祉の価値観に基づいて、様々なニーズを抱えている利用者の個別性や環境要因がどのよに活用できるかということを考えながら学ぶようにする。 (2) ノートは板書以外の説明事項なども積極的にまとめ、自分が見やすいように工夫する。 (3) 授業内で使用する副教材・介護用語辞典等の教材は自主学習にも有効に活用すること。 【評価方法】 ４回の定期考査と適宜実施する小テスト、課題提出状況、授業態度等を総合的に判断する。		
評価方法	(1) 関心・意欲・態度 ・レクリエーション活動について関心を持ち、学習に対して意欲的に取り組んでいる。		
	(2) 思考・判断 ・レクリエーション活動と自立生活支援の関連について考えることができる。 ・高齢者や障害者の生きがいと社会参加について主体的に考え、自分の意見を述べることができる。		
	(3) 技能・表現 ・学習の中で、追求し考察した内容や結果を様々な方法で適切に表現できる。 ・対象に合わせた具体的なレクリエーションを計画し、実践することができる。		
	(4) 知識・理解 ・レクリエーションに関する基礎・基本的な知識が総合的に身に付いている。 ・生きがいや自己実現、QOL（生活の質）など自立生活支援に必要な援助であるという社会福祉における意義が理解できる。 ・レクリエーションの援助者としての役割が理解できる。		

授　業　計　画

項　目	時数	具　体　的　な　内　容
１．レクリエーションと社会福祉	3	第１章　レクリエーションとは １.レクリエーションの意味　２．レクリエーションの歴史　３.レクリエーションの概念
	2	第２章　社会生活の中でのレクリエーション １.地域生活の中でのレクリエーション　２.施設生活の中でのレクリエーション
	2	第３章　活動領域 １.活動領域（地域・学校・職場等）　２．活動の機能と効果（余暇の機能からみた活動）
	4	第４章　レクリエーションの意義 １.社会福祉分野（児童・高齢者・障害者福祉から） ２.高齢者と障害者の生活の特徴 ３.ライフスタイルからみたレクレーションの意義 ４.ライフステージからみたレクリエーションの意義 ５.自己実現と生きがい
	2	第５章　レクリエーション活動 １.活動の主体（個人・集団等）　２.活動実施の条件（物的・人的・精神的資源の活用）
	3	第６章　援助者の役割

		1.レクリエーション支援　2.援助者の役割　3.A－PIEプロセス
2．レクリエーションの展開と実際	15	第1章　レクリエーション計画 1.レクリエーション活動援助の理念 2.レクリエーション活動援助計画 (1)援助者の役割・援助体系（個人・手段・社会福祉） (2)計画の目的・留意点・計画の種類 (3)方法と実際・評価
	2	第2章　治療的レクリエーション 1.レクリエーション療法　2.セラピューテック・レクリエーション　3.援助方法
	2	第3章　レクリエーション財とその展開 1.レクリエーション財とは　2.4つ価値

(3) 学習指導例

「レクリエーションの展開と実際」から第1章の「2．レクリエーション活動援助計画(3)方法と実際・評価」における学習指導例を示す。ここでは、コミュニケーションを通した仲間づくりと残存機能維持を目的としたレクリエーションにおいて、高齢者や障害者を対象にしたレクリエーション計画の工夫について考え、実践することができるようにした。以下に指導目標及び指導計画を示し、その中より、活動の実際として「フロアーを使ったレクリエーション」の実践を取り上げ、学習指導案を作成した。このレクリエーションの実施においては、福祉現場で活用することも考え、手技手法だけでなく、利用者の気持ちの理解や介護者としての心構え、対象に応じた個別・集団援助についても触れる機会を設けることが大切である。

指導目標	ア　社会福祉援助技術の方法やコミュニケーション技法の知識・技術を整理する。 イ　自立生活支援や福祉ニーズを踏まえた、レクリエーションの援助者の役割を理解させる。 ウ　安全性かつ楽しさを与えるための具体的な方法と留意点を理解させる。 エ　活動に対する振り返りを行い、対象に応じた活動の工夫について検討する。
指導計画	ア　社会福祉援助技術の方法およびコミュニケーション技法の学びの確認　1時間 イ　援助者の役割　1時間 ウ　活動の実際「フロアーを使ったレクリエーション」　2時間（100分）

(学習指導案)

指導段階	指導内容	学習活動	指導上の留意点と評価の観点
導入 (10分)	・本時の学習の流れを説明する。	・本時の学習の流れを理解する。	・積極的に説明を聞いているか確認する。（関心・意欲・態度）
展開 (65分)	・項目ごとの概要とねらいを確認する。 ・教員による運営と生徒の体験。	・各項目の具体的な方法を確認し、留意点を理解する。	・実施するレクリエーション内容のプリントを確認し、社会福祉援助技術の技法について確認をする。（知識・理解） ・活動内で相互交流を理解し、適切な行動が取れているか。（思考・判断）
まとめ (25分)	・体験しての感想と対象が変化したときの工夫についてまとめる。 ・グループごとにまとめ、発表する。	・ワークシート、授業評価表を記入する。 ・授業内容や参加について自己評価する。 ・対象が変化した際の工夫について検討し、意見交換をする。 ・検討した考えを発表する。	・活動に対して、振り返ることができ、今後の活動に対する評価ができているか。（思考・判断） ・自らの活動の振り返りと今後の展開について、発表することができているか。（技能・表現）

(「フロアーを使ったレクリエーション」の実施内容)

項目	形態	概要	ねらい
1　拍手ナンバー（10分）	個人	①全体で拍手をする　②援助者の言う数に合わせて拍手をする （「1」→拍手1回、「2」→拍手2回・・・）	場の一体感を持たせる。 個人に対する動機付け

2　ナンバーコール(10分)	対人	①援助者が言う数にあわせて、近くの人とペアになる　②ペアになったら、手をつなぎ、その場に座る　③援助者が言う数に合わせて、別の人とペア・グループになる（繰り返す）	手のふれあいを通じての他者との交流
3　ジャンボじゃんけん(10分)	小集団対抗	①グループで、全身を使ったじゃんけんをする（グー：しゃがむ／チョキ：真ん中2人のみ立つ／パー：全員で万歳をする） ②3回勝ったチームは、全員で万歳をする	小グループでの連帯感
4　バースディーライン(20分)	全体	言葉を使わずに相手の誕生日を伝え、円状に並ぶ	大人数での仲間意識
5　歌遊び(15分)		①季節や集団の年代にあった歌などに合わせ、体の体操をする ②自分の膝→右隣の膝→自分の膝→左隣の膝→自分の膝→両隣の膝→自分の膝→肩→両手を挙げる→頭→肩→自分の膝→手を叩く	触れ合いを通じて、仲間意識の確立

【実施上の留意点】

○　レクリエーションに入る前に、デモンストレーションを用いて、内容やルールの説明を行う。
○　レクリエーション中の個人や集団の観察を通じて、場の変化に注意してかかわる。
○　相互交流が図られるように十分な働きかけ（言動）を行う。
○　事前に他の援助者と行う内容や留意点などを十分に確認し、不測の事態に備える。

【高齢者や障害者を対象にした際の工夫（例）】

○　手足が不自由な場合、参加者の残存機能を生かすことができるよう、不自由なところを支援して一緒に行う。ただし、援助者が主になってはいけない。
○　ジャンボじゃんけんを行うことができない場合は、グループ対抗じゃんけん（グループから一人ずつ他のグループへ行き、じゃんけんをして、勝ったら自分のグループに戻る。グループ全員が、じゃんけんに勝ったら、万歳をする。早く全員が終わったグループが勝ち）や肩たたきじゃんけんなどの工夫をして行う。
○　高齢者や障害者の不自由さだけに注目するだけでなく、疲労度も考慮し、必要に応じて実施する項目を減らす。

【ワークシート】

◇フロアーを使ったレクリエーション

氏名＿＿＿＿＿＿＿＿

1　体験を終えての感想

2　高齢者や障害者を対象にした際の工夫したところ

3　グループ内での意見

※　他のグループのまとめを聞いて気づいたところ

【授業評価表】

評価項目	評価点
用意されたプリントは適切でしたか	A－B－C－D
説明の声は十分聞こえましたか	A－B－C－D
授業を進める速さは適切でしたか	A－B－C－D
授業の説明は丁寧で理解しやすかったですか	A－B－C－D
グループでの交流が図られる学習内容でしたか	A－B－C－D

Aそう思う、Bややそう思う、Cあまりそう思わない、D全くそう思わない

Topic　他教科との横断的な連携による授業実践例

福祉「社会福祉実習」
食事の援助
○食事の身体的、精神的、社会的な役割
○対象者の身体機能から判断した介助の方法
（半側臥位やファーラー位、視覚障害等）
○誤嚥の予防、応急処置

家庭「家庭総合」
高齢者の食生活について
○栄養素
○不足しがちな栄養の配慮
○調理方法・調味の工夫
○献立の決定、調理実習

↓　↓

高齢者への食事介助実習

科目「社会福祉実習」の単元「介護技術の基本と実際」における「食事の援助」の内容を扱う際に、教科「家庭」の科目と連携することで、高齢期の栄養摂取量や食事形態等について体験的に学習することもでき、食事の援助に関する基礎的な知識と技術の修得を深めることが期待できる。